

## 2020年度国際漁業学会（JIFRS）大会シンポジウム

### 「先端技術と漁業管理」

コーディネータ 松井隆宏（東京海洋大学）、東田啓作（関西学院大学）

解題：資源ストックの減少に対処し持続可能な漁業を行うためには、正確なモニタリングと資源評価、利害関係者間での情報の共有、適切な漁獲量の管理が必要です。しかし、これらの実行には大きな費用が発生すること、個々の漁業者にとって情報を他者と共有するインセンティブが小さい場合があることから、利害関係者が合意できないケースも多いです。

この問題の解決につながり得る技術が近年急速に進歩してきています。GPS 端末と衛星画像によって、漁船の航跡や魚・魚群の移動経路を捕捉することができるようになってきています。先端技術は、正確な資源評価、迅速なデータ蓄積・共有と漁獲管理の実行につながるうえに、小さい費用で導入可能なものも存在します。一方、潜在的な問題点も存在します。資源評価や漁獲記録をどの程度正確に行えるかについては、さらなる実証実験によるデータの蓄積が必要です。開発途上地域の小規模漁業者にとっては費用が大きすぎる技術もあります。導入の際の費用負担の配分、および社会規範やとのコンフリクトも課題になります。こうした先端技術の導入の状況と課題に直面するなかで、今回のシンポジウムでは広く漁獲管理と違法操業監視への先端技術利用の可能性について、活発に議論していただきたいと考えています。

東田啓作

日時：2020年8月29日	13:00-18:00
司会 松井隆宏（東京海洋大学）、東田啓作（関西学院大学）	
開会挨拶 学会長 婁小波（東京海洋大学）	13:00-13:05
解題 東田啓作（関西学院大学）	13:05-13:25
報告1 森下丈二（東京海洋大学）	13:25-13:55
「地域漁業管理機関における資源管理コンセプトの進展・現状・課題」	
報告2 日高 健（近畿大学）	13:55-14:25
「漁業法改正による沿岸漁業管理の変化と課題」	
休 憩	
報告3 和田雅昭（公立はこだて未来大学）	14:25-14:35
「データ連携と管理型水産業」	
報告4 江崎修央（鳥羽商船高等専門学校）	15:05-15:35
「ITを用いた漁業支援－三重県を中心に－」	
報告5 大関芳沖（水産研究・教育機構）	15:35-16:05
「人工衛星によるモニタリング技術を用いた漁業活動の把握について」	

	休 憩	16:05-16:15
コメント1	若松宏樹 (水産研究・教育機構)	16:15-16:30
コメント2	若松美保子 (東京海洋大学)	16:30-16:45
ディスカッション		16:45-17:55
閉会挨拶	大会委員長 宮田勉 (水産研究・教育機構)	17:55-18:00
Zoom による懇親会		18:10-20:00